



立教大学

立教大学経済学部のキャリア教育の取り組み

[2015年4月～2017年4月]



本学部では、2013年度からの4年間、学内の教育活動推進助成を得て、主体的に学び能動的に取り組む態度や意欲を育てて専門科目での学びをより深めることを目指してキャリア教育の充実に努めてまいりました。そのなかのいくつかのプログラムにつきましては、2015年4月から2017年4月までの経済人クラブ様の会報誌でご紹介させていただきました。本冊子は、その記事をとりまとめ、さらに写真等を追加したものです。この冊子が、本学部のキャリア教育をご理解いただく一助ともなれば幸甚です。

経済学部キャリア教育運営委員会座長 山田康裕



2016年4月入社の新卒採用活動がいよいよスタートし各社とも優秀な学生を確保するために日々活動していることと思います。

そうした中、母校ではどういった学生を社会に送り出すかを研究しながらキャリア教育に取り組んでいます。インターンシップに注目が集まりがちですが、そもそも大学がどういった考え方のもとキャリア教育を行っているのか、当クラブと関係の深い経済学部の取り組みを連載形式でご紹介することになりました。

第1回目は経済学部のキャリア教育の考え方について学部長の郭先生のお話と、実際のプログラムの様子をご紹介いたします。



専門教育を生かす教育、 それが経済学部が目指すキャリア教育です。

経済学部長 郭 洋春



キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」2011年1月31日)のことです。

日本でキャリア教育の重要性が叫ばれるようになったのは、20世紀後半におきた地球規模の情報技術革新に起因する社会経済・産業的環境の国際化、グローバリゼーションが大きな影響を及ぼしたと言われています。グローバリゼーションは

日本経済に構造的変革をもたらしたにとどまらず、私たちの日常生活にも大きな影響を及ぼしています。このような経済社会の変化が、学校の成育環境を変化させたと同時に学生の将来にも多大な影響を与えつつあります。情報技術革新は、子どもたちの成長・発達にまで及び、さらに教育の目標、教育環境にも大きな影響を与え始めている。その大きな柱の一つがキャリア教育です。従って、キャリア教育とは、今日のグローバリゼーションの名の下で変化する社会に適応できる能力のことといえるでしょう。

そのため大学教育の中でもキャリア教育の必要性や重要性は、日々高まっています。一方で「キャリア」教育という言葉から、大学の現場や経済界では「就職活動」や「就職に役立つ能力」ととらえ表面的な技術を教えようしたり、職場体験活動こそ重要だとしてインターンシップばかりに重点を置くなど、かなりの混乱があるのも事実です。

こうした中で経済学部が考えるキャリア教育とは、専門教育への認識をより深め、社会に役に立つ能力を涵養する教育だと位置づけています。専門教育の多くは世の中の仕組み=構造を解明し、理論的に理解する能力を身に着けます。それはすぐには世の中の要請にこたえるものではありません。それを補完し、経済学の面白さを理解せることができるるのがキャリア教育だと考えています。従って、専門教育とキャリア教育はメダルの裏表の関係にあります。キャリア教育を学べば専門教育への興味と理解が深まり、自らの持っている能力を再認識できる。それが経済学部が考えるキャリア教育です。これらは決して大学という閉ざされた空間だけでは実現することはできず、実社会との応答的関係の中で形



成されるものだと考えています。

経済学部は、2000年に入ってから立教経済人クラブと様々な産学連携活動を行ってきました。振り返ってみれば、それらのほとんどはキャリア教育と言えるものです。これからも立教経済人クラブの皆様のお力を借りながら、経済学部ならではのキャリア教育を実践していくたいと考えています。これからもお力添えのほど、よろしくお願い致します。

大学のキャリア教育について、経済学部の取り組み第2回目は、キャリア教育が強化された背景と、本年度の取り組みの様子等を、キャリア教育担当の遠山教授とコーディネーターの小泉様に寄稿していただきました。

経済学部キャリア教育強化のあゆみ

立教大学経済学部キャリア教育運営委員会座長 遠山恭司(経済政策学科教授)

立教大学経済学部教育研究コーディネーター 小泉苑美

立教大学経済学部は、キャリア教育以前に学内の教育活動推進助成(通称、立教GP)を受けて、「初年次教育における学習意識と基礎能力の育成プログラム」(2009~2011年度)に取り組みました。同じころ、全学的に学部の特性や専門性に応じたキャリア教育強化の必要性が唱えられ、キャリアセンター制度が導入されました。

これを機に経済学部では、専任教員とキャリアセンターからなるキャリア教育運営委員会を新設しました。そこで前GPの成果と課題を引き継ぎ、「経済学部キャリア教育改革プログラム」として新たなGPを2013年度から4年間にわたって展開しています。入学から卒業までを通して、学生の段階的な成長を後押しするキャリア教育の拡充および体系化を目指しています。

まず、キャリア教育の観点から現状を分析し、

課題を整理するために卒業年次の浅い社会人(2009~2011年度)を対象にアンケート調査を実施しました。具体的な計画を立てる上で、実際に本学部の教育を受けた卒業生のリアルな声にこそ、学部教育をより充実させるためのヒントが隠されていると考えたからです。そうした評価を受けることで、「社会から見た立教大学経済学部」を私たちが客観的に認識する一助にしたいという想いがありました。

その結果から導き出された学部教育に対する4つの課題は、「初年次教育の充実」「少人数教育の充実」「社会連携により開講される科目・演習の充実」「グローバル教育の充実」でした。それを受け、経済学部では、学生が新たな一歩を踏み出せるような様々な挑戦しがいのあるプログラムを企画・実施しています。

立教大学経済学部キャリア教育強化

「4つの柱」

初年次教育の充実

- 学部オリジナル・新入生オリエンテーション企画の開催
「スタディサポートプログラム」(2013年度開始)
- 「基礎ゼミナール」の充実化・平準化支援
担当教員アンケートと調査報告会(2013年度)

少人数教育の充実

- ゼミナール形式による課題解決型授業の新設
「企画講座C」「企画講座I」(2013,2014年度開始)
- グループワーク・プレゼンテーション機会の増設
正課「インターンシップ」の強化(2014年度開始)
4大学連携「サマーチャレンジワークショップ」(2013,2014年度)

社会連携により開講される科目・演習の充実

- 社会理解・職業理解を深めるキャリア科目的開講と複数化
「企画講座G」「企画講座C」「企画講座I」(2013年度から順次)
- 未来志向を養うプログラムの開催
経産省後援講演会「おもてなし経営の心得」(2013年度)
「JALサマーワークショップ」(2015年度予定)

グローバル教育の充実

- 現地語学研修・海外インターンシップの機会の提供
「フィリピン・グローバルコミュニケーション・インターンシップ」
(2013,2014年度実施、2015年度より正課化)
- 日本企業の視点から国際感覚を養うプログラムの実施
「産学連携グローバル人材育成プロジェクト」(2012,2014年度)
「グローバルゼミナール」(2015年度予定)

「スタディサポートプログラム2015」実施報告

立教大学経済学部教育研究コーディネーター 小泉苑美



晴天に恵まれた2015年4月2日、経済学部オリジナルの新入生オリエンテーション企画「スタディサポートプログラム2015」が開催されました。

当プログラムは、「①新入生が高校までの学び方と大学での学び方の違いを知り、大学での学びに期待と意欲を持つ、②新入生が、経済学部の先輩の姿を見て、自分の将来像のイメージを掴む、③新入生の緊張を和らげ、友達づくりのサポートをする」の3点を目的に、学部を代表する新2・3年生のスタッフが新入生約700名を歓迎し、当日のプログラムの運営全てを担うという、上級生の成長の場としても大きな役割を果たす内容となっています。

3回目の開催となった今回、スタッフの学生に挑んでもらったミッションは、「立

教大学・経済学部を新入生に紹介するCMを制作せよ」というものです。これまで自分たちが過ごしてきた学生生活を振り返りながら、「他の誰でもない、同じ経済学部の先輩だからこそ伝えられるメッセージ」は何であるかを、各グループで話し合い、2分間のCMで表現してもらいました。

12月から懸命に準備を重ねてきた結果、新入生からは「これからの大学生活が楽しみになった」「積極的に色々なことへ挑戦していきたい」という前向きなコメントが多く寄せられ、過去最高の満足度を獲得することができました。

人のために何かを創り上げる大変さと、人を楽しませる喜びを知ったスタッフのメンバーが、更に幅広く活躍してくれることを学部として期待しています。そして、心からの歓迎を受けた新入生の皆さんのが、1年後、先輩としてこのステージで輝かしい姿を見せてくれることを、今から楽しみにしています。



卒業生＆在学生交流団体「四丁会」のご紹介

経済学部では、「立教大学経済学部」と同じパックグラウンドを持つ卒業生と在学生、また卒業生同士の交流を活性化させ、長期的視野にたったキャリア支援へつなげることを模索しています。

そのような中、昨年12月に開催された『第1回赤レンガセッション』をきっかけに、若手の卒業生と在

学生の計13名が執行部を務める、新たな交流団体「四丁会(よんちょうかい)」が設立されました。今後、彼ら彼女らが交流イベントの企画・運営の中心を担い、より幅広く多彩なつながりを創出できるような企画を仕掛けていきます。これから活動に、ぜひご注目ください!

☆四丁会主催イベントの情報は、Facebookページや、経済学部キャリア教育サイトのメールマガジンにて配信いたします。

- ・経済学部キャリア教育Facebookページ: www.facebook.com/Rikkyo.Economics.Career
- ・経済学部キャリア教育サイト「STORY」:<https://rikkyo-ecocareer.jp>
(OB・OGセンター登録をしてくださった方へ、メールマガジンをお送りしております。)



経済学部のキャリア教育の取り組み3回目は、本年度実施されている「企画講座」の模様をご紹介いたします。

キャンパスの木々の葉も紅葉に染まり、赤煉瓦の校舎とのコントラストが美しい季節になりました。夏季休業中には立教経済人クラブ加盟企業に5名の学部生がインターンシップ研修でお世話になり、秋学期から見違えてたくましくなって戻ってきました。キャリア教育関連科目やスキルアップ講座では専門科目と経済社会の関連を意識させつつ、受講生は現実的な諸問題を実践的に学ぶ環境を得て大いに勉学に励んでいます。OBOGのみなさまと、赤レンガセッションでお会いできるのを楽しみにしています。

経済学部キャリア教育運営委員会座長 遠山恭司



産学連携による課題解決型授業「企画講座C」 —Project-Based Learning—

2013年度にスタートを切った、経済学部のキャリア教育の柱である正課「企画講座C」も、今年で3年目を迎えました。当科目は、協力企業から提示される具体的な課題に対し、解決策の検討や提案に取り組む中で、社会理解・職業理解を深めることはもちろん、専門科目として学ぶ経済学と実社会で起きている問題とのつながりを実感してもらうことを目的に展開しています。

今年度の授業前半をご担当いただいたのは、科目的立ち上げ当初からご支援いただいている、株式会社Plan・Do・See。ホテルやレストラン、ウェディングの企画運営・プロデュースを主な事業とする企業です。昨年度までは、課題提示から最終発表まで全ての回を学内の教室で行ってきましたが、「より会社の一員としての意識を強く持って、企画の仕事をリアルに体験してもらいたい」との想いから、授業初回と最終発表日には本社オフィスの会議スペースをお借りして課外授業を実施しました。さらに、初回には“入社式”を模したセレモニーと名刺交換も体験させていただきました。

今回の課題は、「次の50年も愛されるThe Sodoh Higashiyamaの戦略を立案せよ」！ Plan・Do・Seeが実際に運営する京都の店舗を題材に、50年後の未来を想定して大改装を行うとしたら、どのような提案をするかというものです。企業が掲げるビジョンやミッションを背負い、各チーム4名で資料収集・情報分析・ディスカッションを約1ヶ月間重ね、先輩社員の皆様を前にプレゼンテーションを行いました。

結果、ターゲット層拡大のための新規プランや、人生二度目のプロポーズという文化自体の発信、また訪日外国人に対するサービスなど様々な切り口の面白い提案が集まりました。発表時の堂々とした立ち振る舞いからも、彼ら・彼女らがどれ程真剣に、熱意を持って取り組んできたかがしっかりと伝わってくる内容でした。

今回の経験で得た達成感や悔しさを忘れることなく、学生の皆さんには「こんな未来になつたらいいな」をひとつひとつ着実に叶えていくための豊かな発想力と力強さを持って、近い将来、立教大学経済学部から羽ばたいてもらいたいと願っています。

チームで課題解決する力を高めるワークショップ 「ENERGIZE2015」開催！

課題解決型授業「企画講座C,G,I」履修者を主な対象とした、3回連続ワークショップ「ENERGIZE」が、この秋新たに始動しました。当プログラムは、社会で必要となる「協働して成果を出す力」を、授業やゼミナールなどの学生生活を通して実践的に身に付けられるようになることを目的に企画されたものです。具体的には、グループでの課題解決の基礎となる「協働のスキル」、真の課題を設定する「論理思考のスキル」、発表時に必要な「プレゼンテーションスキル」の3つのスキルの獲得を目指します。

今回集まった35名の学生は、応募時に志望理由の提出を必須としたこともあり非常に意識が高く、ディスカッションの立ち上がりの速さや声の大きさ、相手の話を真剣に聴こうとする姿勢、リアクションなどからも、それが見て取れるような活気あるクラスとなりました。

今後、参加学生たちがこの3日間で得た学びを生かし、様々な場面で周りを、そして社会を“energize(～にエネルギーを与える、元気づける)”してくれる期待しています。

経済学部教育研究コーディネーター 小泉苑美



2015年度 経済学部正課インターンシップ報告

キャリア教育運営委員会座長 遠山恭司

経済学部が「インターンシップ」を通年4単位の正課科目として設置したのは2003年度で、本年度で13年目を迎えました。当時、正課として「インターンシップ」を開講する経済学部は全国的に見てもほとんど存在せず、その意味では、本学経済学部の取り組みは先駆的な試みでした。

近年、多くの大学や企業で積極的に取り組まれているインターンシップの多くは、その直線的な延長線上に「就職」が設定され、会社見学とグループワークを1~5日で実施するものが多いようです。また、参加する学生の意図も、「就活」でのより直截的なメリットを意識しています。

しかし、本学経済学部の「インターンシップ」は、開講当初よりそうした直截的な「就職」支援を目的にしていませんでした。むしろ、インターンシップを通じて、これまで大学で学んだ知識や修得した能力を就業体験の企業活動の現場で自ら検証し、自分自身を客観的に再認識すること。そのうえで足りない知識や能力は何か、社会性や人間としての常識は備わっているか、そうした反省の上に立って、大学で目的意識を明確にした学習や生活をおくための契機を与えること。これらが科目開講に当たって、経済学部が掲げた目標であり、13年を経た現在でも変わっていません。

その場しのぎの「就活」スキルを与えることではなく、こうした自己省察の契機を学生に与えることこ

そが、長い人生を主体的に生き得る力を学生に付けさせる方法であり、より本質的な「就職」支援とわれわれは考えています。

本学の「インターンシップ」は立教経済人クラブの加盟企業を中心に受け入れていただき、実際の業務を2週間にわたって体験する「インターンシップ」となっています。2015年度は5名の受講生が、E.OCT(株)、オリエンタル酵母工業(株)、(株)三栄コーポレーション、日興ビジネスシステムズ(株)、(株)フジタで充実した研修を受けて参りました。

より良い社会を創り出すために、主体的なキャリア意識の形成を学生に促し、社会常識を備えた感性豊かな人材を社会に送り出すこと、これは大学に課せられた責務です。この責務を果たすために、経済学部が取り組む教育プログラムの一つが、この「インターンシップ」科目と位置づけられています。今後とも、立教経済人クラブにおかれましては、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆学生の声①

経済学科3年 堅石裕希
派遣先:(株)フジタ

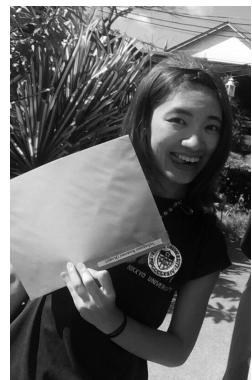
働くということは、楽しいことも辛いことも両方あるということが実感できました。楽しいこととしては、自分の行う仕事が人々の役に立つ瞬間があげられます。辛いことでは朝から夜まで時間を拘束され

て働かなくてはならないということです。また、各部署を回ったことで、建設業だけではなく、不動産業や金融業にも興味が湧き、視野が広がりました。

◆学生の声②

経済政策学科2年
阪上木乃実
派遣先:(株)E.OCT

主に3つにまとめます。ひとつは、作業を作業としない、ということです。作業ではなく考えながら「仕事を」することを学びました。二つ目は、向上心を忘れないこと。現状に満足せず、さらに上を目指す空間にいました。三つ目は、共有することの意味です。自分1人ではなく、全員の体験を共有する環境とそのことの効果に感動しました。



経済学部 在学生&卒業生交流会「赤レンガセッション」

経済学部主催の、卒業生と学生の創発を目指す交流イベントとして、2014年度から年2回(夏・冬)開催されているのが『経済学部在学生&卒業生交流会 赤レンガセッション』です。今まで3回実施され、多くの学生と20代から70代のOB・OGの方々が参加され、新たなスタイルの交流が育まれています。

◆「赤レンガセッション」開催目的と近況

学部では、「経済学部キャリア教育改革プログラム」を推進し、他学部に先駆けてキャリア教育の一層の充実に取り組んでいます。その中であらためて「同窓連携」の重要性が認識されています。ご存じのように「校友会」「経済人クラブ」をはじめとして卒業生間のネットワーク化が図られていますが、学部の学生と卒業生の皆様とが直接話をし、交流を深める機会は、ゼミやサークル、就職活動など、一定の範囲にとどまっておりました。

「赤レンガセッション」は、多くの卒業生の方々と学生とのコミュニティで紡がれるものの可能性を活かしたく、同窓連携コミュニティの交流イベントとして開催しています。学生は多世代の社会人と交流することでキャリアの考え方を深め、人間力を高める上で大きな意義を感じており、一方、卒業生の方々も自らの経験を語るだけではなく、若い世代とのわけ隔てない対話をすることで様々な気づきを得られることから、リピート参加される方も増えています。また、赤レンガセッションをきっかけに卒業生間の新たな人脈も形成され、学部プログラムへご支援いただいく例もでています。さらには昨年、同窓連携コミュニティ「四丁会(よんぢょうかい)」が発足し、学生中心の執行部が赤レンガセッションの企画運営を担うまでに成長しました。

◆『第3回赤レンガセッション(2015年12月8日)』開催レポート

クリスマスイルミネーションの美しいキャンパスにて「第3回 赤レンガセッション」が開催されました。今回のテーマは「リーダーシップ力×コミュニケーション力」。リーダーシップとは? 自分にとってのリーダー像とは? 学生&卒業生の多世代グループで、フラットで真剣な対話を深めています。ゲストにレゴ®シリアルスプレイ®メソッド公認ファシリテーターをお迎えし、レゴ®ブロックを自由に組み立てる、普段とは異なる刺激的なワークショップによって、参加者それぞれの考えが共鳴して大きな気づきと認識を持つ経験を一同で共有しました。大勢の方々が二次会にも引き続き参加されるなど、参加者皆様の笑顔があふれる盛会となりました。



第4回赤レンガセッション

被災のリアルを考える ~避難所運営ゲームHUGにチャレンジ 実施レポート

経済学部の卒業生と在学生の交流イベント、第4回赤レンガセッションが2016年7月8日(金)、太刀川記念館にて開催されました。赤レンガセッションは、学生と卒業生のフラットな交流を通じて、同窓の結束のもとそれぞれのキャリアの成長と、立教大学経済学部のさらなる発展を目指すものです。

今回のテーマは、『被災のリアルを考える』。春に発生した熊本地震を意識し、誰もが人ごとではなく明日は我が身に起きることと危機意識を持ちながらも、一般的に防災・減災のアクションはなかなか起こせません。実際に被災したらどうすればよいのか考えたいと、四丁会学生執行部を中心に企画されました。(「四丁会」とは経済学部の同窓連

携団体です)

今回使用された「避難所運営ゲーム HUG(ハグ)」とは、静岡県が2007年度に開発したカードゲームです。大規模な災害時に学校の体育館や市民ホールなどに開設されることになっている「避難所」の運営本部が、無秩序で混乱した状況下でどのように解決していくかを模擬的に体験できるようゲーム形式にしたものです。東日本大震災下でも実際に成果が報告されているそうです。

参加した学生からは、「普段自分が考えるような内容ではないから経験になった」「実際やってみるとこんなに大変んだとびっくりした。何もやらないでこういう事態になったらオロオロしてしまう」「この先生きていくうえで役に立つ」などの感想がきかれました。

OB・OGからは、「いざというとき動ける人間でありたい」「全く未知の世界でよかった」「こういう時に何もできないことを知っていることがスタートだと思う」などの声をいただきました。主催側としては、パニック状態の避難所の運営を通じて、被災の模擬体験のみならず、チームワーク、リーダーシップのあり方、また、地域社会の実際を知るなど、参加者それぞれが自らのキャリア形成や生き方にもつながる多くの気づきを得ていただけたのではと考えています。

年に2回の「赤レンガセッション」では、お一人で参加される方も多く、セッション終了後も、新しいつながりができ交流の輪が広がっています。次回は12月のクリスマスイルミネーションの美しい時期の実施を予定しています。まだ参加されていない方もお気軽にお越しいただき、懐かしく美しい池袋キャンパスでの新たな出会いとコミュニケーションを通じて、ますますのパワーアップと充電をしにきていただきたいと思っております。心からお待ちしております。



正課キャリア科目『課題解決演習C』実施報告

立教大学経済学部教育研究コーディネーター
小泉 苑美

2013年度からスタートした経済学部の产学連携キャリア科目が、この2016年度より、名称新たに再出発いたしました。その名も、『課題解決演習』シリーズ。授業で取り組む内容がストレートに学生へ伝わり、この授業の存在自体をより広く知ってもらえるようにとの願いを込めて、キャリア教育運営委員会のメンバーで決定しました。

全部で3つある『課題解決演習』の中で、この春学期に開講された『課題解決演習C』は、2年生以上を履修対象にした、少人数形式の授業です。今年度ご協力いただいたのは、株式会社ワークスアプリケーションズと株式会社栄光。半期を前半・後半に分け、それぞれ5~6回ずつ授業をご担当いただきました。

前半のワークスアプリケーションズの授業は、チーム対抗のディベートと、そのための思考整理・発言準備となるレポート執筆を柱に展開されました。ディベートのテーマは、「2020~2050年をより良い未来にしていくために、これから日本人が最も学ぶべきと思う学問はどれか」や、「2020~2050年の世界をより良くしていくために、最も発展すべき企業はどれ



か」といった、学生がこれまであまり考えたことも無かったような未来志向のものばかり。今、自分たちはどういう時代に生き、自分たちが社会人となって引っ張っていく未来は、今後どう変わっていくのか。その中で「働く」とはどういうことなのか。残りの学生生活の過ごし方を改めて考え方直す機会としても、とても重要な多くの「問い合わせ」が向き合うことができた時間となりました。

一方、後半の栄光の授業では、「Z会・栄光グループのリソースをフル活用して、教育で社会に貢献する新規事業を提案せよ」というミッションに、5~6人チームに分かれて挑戦しました。チームごとに議論を重ねてテーマを設定し、二度の講師の方への中間報告を経て、最終プレゼンテーションへ。各

チームからは、高齢化や大学入試制度改革、小学校でのプログラミングの必修化など、様々な切り口から提案が集まりましたが、ニーズ分析以上に重要な、「提案者である自分たちが本気でやりたいと思っている事業なのか」「それを何故栄光がやるのか」という根っここの部分について、熱意と説得力を持って伝えられた発表がまだ少ない印象でした。

た。「どういった仕事を通じて、どんな社会を作りたいのか」、「仕事をしていく上で一番大切なのは、その仕事に込めた“想い”である」——。まさにこれから自身の進路を選択していくなければならない学生たちには、この講師の方からのメッセージを正面から受け止め、納得のいくまで考え抜いてもらいたいと思います。



経済学部キャリア教育サイト「STORY」リニューアルのお知らせ

ストーリー
君にしか描けない物語が、
ここにある。

ようこそ、立教大学経済学部へ。
今日から始まった新しい物語の主人公は、「あなた」です。

君にしか描けない物語が、
ここにある。

立教大学経済学部キャリア教育サイト
STORY

経済学部キャリア教育サイト「STORY」を活用しよう！

経済学部では、学生の皆さんから自ら考え、行動し、自身の未来を切り開いていくよう、様々な私たちで成長の“きっかけ”を提供しています。

企業から提示された課題へチームで取り組み、解決策を提案する正課「課題解決演習」をはじめ、学年や学部を超えた仲間と共に挑戦できる、経済学部独自のプログラムを多数展開！
「成長したい」「変わりたい」という意志があれば、参加動機は十分です。
1年生の皆さんからの積極的なチャレンジを、心からお待ちしています！

各種プログラム・イベントの募集情報、キャリア科目的詳細は、このサイトをCHECK！！

まずはメンバー登録をお願いします

1 トップページ「メンバー登録」または「メールマガジン登録」をクリック
2 【登録フォーム】にメールアドレスを入力し、「登録」ボタンをクリック
3 氏名・卒業予定期間を入力・送信すると、登録完了メールが届きます！

メンバーにご登録いただいた場合には、各種募集情報を直接メールにて案内させていただきます。
年数回発行するメールマガジンをお届けします。

早速サイトを見にいこう！

<https://www.rikkyo.ac.jp/eco/career/story/>

【問い合わせ】 経済学部キャリア教育事務室 小泉・鈴木 eco-career@rikkyo.ac.jp

立教大学経済学部キャリア教育サイト
STORY

この度、経済学部キャリア教育サイト「STORY」が、新しいロゴマークと共にリニューアルいたしました!この「STORY」というタイトルは、“大学4年間の過ごし方は、十人十色。入学時のスタートラインは同じでも、自分が何を考え・選択し、行動したかで、人それぞれ全く異なるストーリーが生まれる。=主体的に学び・挑戦し、自分の未来を自律的に切り拓いていける人になってほしい”との想いを込めて名付けたものです。

今後、各種プログラム・イベントの募集情報に加え、実施報告や参加者VOICEなども積極的に掲載して参ります。卒業生の皆様にも、ぜひ立教大学・経済学部の「今」を知るツールとしてご活用いただき、同窓連携強化の取組みへもご協力いただければ嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【サイトURL】 <http://www.rikkyo.ac.jp/eco/career/story/>

◆◆◆ メンバー登録のお願い ◆◆◆

経済学部では、同じバックグラウンドを持つ在学生と卒業生の皆様のタテ・ヨコ・ナナメの繋がりを築き、「同窓連携から生まれる、新しいキャリア教育のカタチ」を創っていきたいと考えております。赤レンガセッションをはじめとする同窓連携イベントや、大学・学生との取組みにご関心をお寄せいただけましたら、ぜひキャリア教育サイトの【メンバー登録フォーム】より、ご連絡先のご登録をお願いいたします。

☆メンバーにご登録いただいた方には、年4回発行する、経済学部キャリア教育メールマガジンをお届けさせていただいております。同窓生の皆様にもご紹介くださいませ。

小泉 菜美



「就業観」や「働く意義」を理解し、高い視座から考える力を身に付ける 正課「課題解決演習B」—Project-Based Learning—

立教大学経済学部教育研究コーディネーター 小泉 苑美

今年度より名称新たに再出発した、経済学部の産学連携キャリア科目『課題解決演習』シリーズ。今回は、科目が立ち上がった2013年度からご協力いただいている、第一生命保険株式会社様の授業をご紹介させていただきます。

「この授業での取り組みを通じて、INPUT志向からOUTPUT志向に切り替えてほしい。」そう語るのは、今年度講師を務めてくださる、人事部

採用グループの藤木学さん。授業の1枚目のスライドには、学生と社会人の違いについてまとめられています。「もちろん、ビジネスを遂行するために基礎知識やスキルは必要。けれど、社会人が評価されるのは《成果》。自らが行動を起こし、考え、発信し、相手や周りにどう影響を与えたか。相手の心や行動をどう変化させたか。その《結果》が、自分でなく《他者》に評価されるのが社会人。学生の皆さんはここで失敗を恐れる必要は無いの

で、自分がどう思うか・どう考えるかを、自分の言葉で伝えようとする努力をしてください。」

第一生命保険による授業は、全8コマで展開されます。そもそも「保険」の存在が身近でない学生が大多数のため、生命保険についての基礎理解から、リーテイル・資産運用の各事業についてワークを通じて学び、最終的には4~5人の少人数チームで課題に取り組み、社員の方々を前にプレゼンテーションを行います。

最終課題は、「生命保険会社の成長戦略を立案せよ」まずはPEST分析で保険業界を取り巻く環境について整理し、その戦略のメリット・デメリット、実現の可能性についても熟考した上で提案が求められるため、『課題解決演習』シリーズの課題の中でもかなり難易度の高いテーマと言えるでしょう。チーム全員で根気よく議論を交わし、学生たち自身が納得のいく“成果”を出してくれることに期待したいと思います。



グローバル化する社会で自分の未来を切り開くワークショップ「INSPIRE」実施報告

経済学部のグローバル系キャリア教育プログラムとして今年度新たに加わった「INSPIRE」。海外での実施部分を含めた昨年度の「グローバルゼミ in シンガポール」とは異なる「非渡航型」のプログラムとして、11月から12月にかけ下記3ステップで実施しました。(inspire:～に刺激を与える、動機づける)

第1回：自分と他者の違いを知る

～異なるタイプの人とのコミュニケーション方法を考える

第2回：文化の違いを知る

～異文化の構造を知り、対応方法を理解する

第3回：違いを乗り越えるために

～自分の個性を自覚し、今後の具体的な行動計画を立てる

プログラム全体を通してペアワークやグループワークが多く、自分のコミュニケーションスタイルについて理解するとともに、自分があたり前だと思っていることが必ずしも相手のあたり前ではないことなどを、ワークを通して実感できる内容となりました。

また最終回では、自分の価値観や将来の姿などをお互い話したり、全員に発表したりするワークをいくつか行いました。自分の考えを話して相互に率直なフィードバックを行うことで、自分についての理解が深まるを感じた学生も多かったようです。これから将来のキャリアを考える上でも有意義な機会になったことでしょう。

学部横断で、それぞれに自分の未来に想いをもって集まった学生たちはお互いから学ぶ意識も高く、事後アンケートでは「他の学生からまさに『INSPIRE』された」「最終回で『じゃあ、自分はどう生きるのか?』を説明して質問をしてもらうことで、自分のやりたいことについて納得できるようになった」などのコメントがありました。今回のプログラムを通じて感じた「個性」「自分らしさ」を大切に、ここで得た仲間とともに未来へ羽ばたいてほしいと思います。



経済学部正課インターンシップの実施報告

授業担当:遠山恭司・三谷 進

経済学部では、正課インターンシップの授業を開講して14年目を迎えます。この間、立教経済人クラブの会員企業のみなさまには多大なご支援をいただき、2週間にわたる就業実習を受け入れていただいています。昨今はやりの就職活動を見据えたインターンとは異なり、ビジネスの現場にどっぷり浸かって本格的な研修を受けられるのが、本授業の特徴です。2016年度は、AMWコンサルティング(株)、SBI損害保険(株)、(株)三栄コーポレーション、(株)スキャンインター、(株)フジタの5社にお世話になりました。以下、受講学生の声を報告書から抜粋・改変して、お届けします。

■ 村越樹生(会計ファイナンス学科4年)

AMWコンサルティング(株)

研修先の社長をはじめ、デザイン会社や顧客企業の方々など、たくさんの魅力あるリーダーと出会う機会があり、皆がついていきたいと思う人はどういった人か、考える機会がありました。また、社会で必要とされる力は、学力や資格といった、数値化・可視化できるものだけではないのだなど、改めて強く思いました。この講義を通じて、「与えられた人生ではなく、自分で切り開いていく人生を歩みたい」と強く思うようになりました。この授業は、非常に費用対効果が高いといえます。

■ 萬 香里(経済政策学科4年)

(株)フジタ

そもそも仕事というのはどのようなものかという問い合わせに対し、輪読やディスカッション、OBの講義を通して、自分の中で熟考してから2週間のインターンシップに臨めました。インターンシップ中は、会社の取り組みそのものよりも、そもそもどのような人が働いているのかに興味が湧き、会社で働いている一人一人の思いを理解することに重きを置くようになりました。働いている人の姿勢や仕事観というのが多種多様だったので関わらず、自分の引き出しにすんなりと入れることができたのではないかと思います。

■ 柴崎 哲(経済学科3年)

SBI損害保険(株)

社員の方に私の長所・短所や性格についてフィードバックを頂いた際、私が今まで同じようなコミュニティで同じような人間関係で育ってきたことを見事に見抜かれました。より多くの人と関わって、多くの経験を積むべきことを教わりました。別のフィードバックでは、論理的思考力を得るためのヒントは、「相手の気持ちに立つ」ことだとのことでした。物事に対して自分がどれだけ考え方抜いたかが、論理的なプレゼンテーションにつながると教えていただき、実際に活かしていきたいと思います。

■ 杉本雄太(経済学科3年)

(株)スキャンインター

書き切れないほど、いろんな意味で成長できました。なかでも、自分の甘さを知ったことだと思います。ただ貿易の仕事がしたいと思っていただけで、理由を深く考えず、貿易を通して何を成し遂げたいかという目的意識が欠けていました。それに気付き、見直した結果、自分の軸となるものと、明確な目標を持つことが出来ました。考えを即行動に移すことを、習慣化していきたいです。

■ 山口真弘(経済学科3年)

(株)三栄コーポレーション

二週間のインターンシップに行くことで、専門的な知識を得ることができました。また、教授や外部講師からは、目標達成をするための方法やビジネスマナーの大切さ、今後の社会や経済の動きを考える重要さなどを学びました。高い次元のコミュニケーションができるようになるために色々な人と話し、さまざまな角度からものが見えるようになるために本を読み、そして、自分ができることを増やすために多くのことを学んでいきたいと思います。

最後に、立教経済人クラブ産学連携担当の林雄太氏のご尽力と、受け入れ表明をいただいたすべての企業のみなさまに心より御礼申し上げます。



外部講師のお話に沸く受講生



和気あいあいと報告書作成に取り組む受講生

和田成史会長をはじめとして立教経済人クラブ会員の皆様には、インターンシップ学生の受け入れなど経済学部のキャリア教育に厚いご支援とご協力を頂いております。まずは、この場をお借りし深く感謝申し上げます。また、会報委員会のご厚意を賜り、会報第65号から毎号にわたり経済学部のキャリア教育に関して大々的にご紹介をいただきました。この点につきましても重ねて感謝申し上げます。

経済学部では3学科の体系的カリキュラムと伝統的なゼミナール教育に加え、キャリア教育と国際化教育を柱に近年の学部教育を展開しております。キャリア教育では社会科学系学部として全国に先駆けて正課科目「インターンシップ」を開設し、さらに協力企業と連携して展開するPBL(Project-Based Learning)型の「課題解決演習」をはじめとして、正課あるいは正課外で多彩な教育プログラムを展開しています。これらキャリア教育を通じて、学生たちには主体的な思考力と積極的な行動力を身に付けて欲しいと考えています。

社会の様々な分野で活躍される立教大学の先輩方のご支援無くて、経済学部がこうした教育を進展させることはできません。立教経済人クラブの諸先輩方には、これまで以上に経済学部教育へのご指導とご支援をお願い申し上げます。

経済学部長 須永徳武





立教大学